

遺伝子から推定する サクラの系統関係

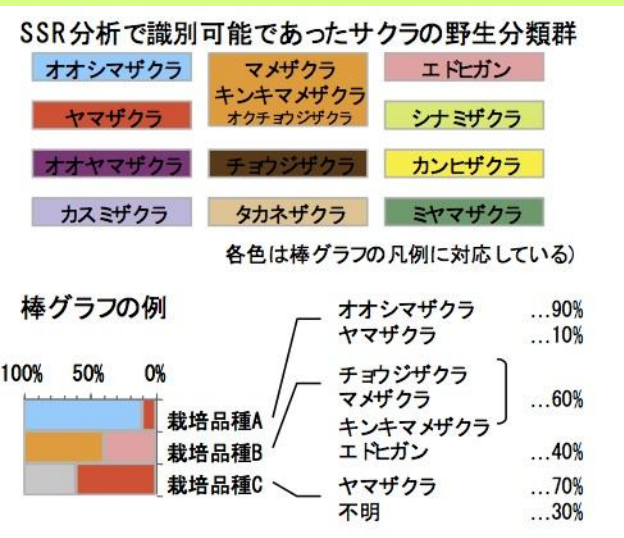


200種類以上もある美しいサクラの栽培品種を遺伝子で正確に識別し、さらに栽培品種の成立に関与したと思われる野生種を推定する研究を紹介します。

講師 吉丸博志（多摩森林科学園）

桜の栽培品種に関する野生種を推定

日本には約10種の野生のサクラが自生していますが、これらをもとにして古い時代から、花を観賞するための様々な栽培品種が育成されてきました。これまでに遺伝子マーカーと外部形態による正確な再分類を進めてきましたが、さらに各栽培品種の起源を推定するために、多型性の高い26座のSSRマーカーを用いて、その成立に関与したと思われる野生分類群の推定を行いました。多くの場合は外部形態に基づく従来の推定をおおよそ反映するものでしたが、外部形態だけでは検出できない関係も示唆されました。



栽培品種の成立に関与した野生種を推定する遺伝子解析の結果。各色の棒グラフは野生種の関与の割合を推測するもの。

サトザクラの仲間は従来オオシマザクラの関与が強いと言われていたが、ヤマザクラの関与もかなりあることが確認された。

染井吉野の仲間は、エドヒガンとオオシマザクラの関与が強いことが確認された。

その他、カンヒザクラやシナミザクラの関与するもの、ほぼひとつの野生種のみが関与するものなど具体的に確認された。

